



鉢形城歴史館情報

鉄砲伝来

教科書にも記述されているように、鉄砲は天文12年（一五四三）種子島に漂着したポルトガル人によって伝えられ、その後、全国に広まったとされています。この説は、「鉄砲記」と呼ばれる書物に由来するもので、慶長11年（一六〇六）に種子島氏が祖先の功績をたたえるために書かせたものです。そのために、「鉄砲記」の鉄砲伝来に関する記述については、現在、再検討されつつあり、多角的な研究が始まっています。中には鉄砲の形態から、ヨーロッパから直接伝わり、広まったのではなく、東南アジア方面からとする説や、倭寇等の活動にともなう別経路とする説もあります。

後北条氏と鉄砲

天文22年（一五五三）室町幕府第13代将軍足利義輝が、上野国金山城主（群馬県太田市）横瀬成繁に対し、「鉄砲が」数寄と聞いたので、鍛冶を呼んで作らせた鉄砲が見事だから、「挺遣わす」とあり、同22年

鉢形城と鉄砲

鉢形城主北条氏邦が鉄砲に造詣の深かったことは、意外に知られていません。永祿5年（一五六二）に用土新左衛門・山口上総守にあてた鉢形城主北条氏邦の文書中に「大鉄砲」（火縄銃の大型のもの）とあり、「大鉄砲」と記述された戦国大名の発給文書の中で最も早い例になります。また、山口上総守に対し、褒美として「引添注書」を譲る約束をしており、その書物は秘伝書と思われず、一般的に、通常の火縄銃に比べ、大鉄砲は取り扱いが難しく、相当な鍛錬が必要であったといわれており、氏邦や用土・山口両氏が熟練した技量の持ち主であったことがわかります。氏邦は軍備として鉄砲衆を編成しました。秩父孫次郎を中心とした秩父衆は在地武士集団で、寄居町内の折原衆・秋山衆も秩父衆として編成されていました。鉄砲衆として「拾挺鉄砲秋山衆」とあり、3丁のみの秩父衆本隊に対して秋山衆が、秩父衆内の鉄砲衆の主体となっていたと考えられます。



復元された南蛮筒
国立歴史民俗博物館所蔵
現存する南蛮筒や秘伝書を参考にして復元した火縄銃

また、新田家所蔵鉢形城絵図によると城下には「鉄砲小路」の名が記されており、鉄砲を生産していたと思われるが、詳細は不明です。ちなみに、氏邦の父氏康は江戸浅草在住の鍛冶師近藤萬栄に鉄砲を作らせていたようで、後北条氏領域の拡大にともない各城下に鉄砲製作集団を住まわせたものと思われる。



大筒 国立歴史民俗博物館所蔵
150匁（約563g）の玉を発射したことから150匁筒とも呼ばれます。



関流の鉄砲 国立歴史民俗博物館所蔵
関流は元上杉家家臣関之信が霞流丸田九左衛門盛次に師事した後に称した流派。銃身がやや短いのが特徴です。

小田原の役

後北条氏は、天下統一を目指す豊臣秀吉との軍事的緊張が高まる中、盛んに火器を生産しました。天正14年（一五八六）には中筒製作のための土を大磯から小田原まで輸送させ、同17年（一五八九）には領国内の鋳物師を総動員して大筒20丁の製作を命じています。しかし、豊臣軍の圧倒的な火器量にはどうすることもできず、後北条氏の城はいともたやすく落城しました。鉢形城も鉄砲・弓などで防戦しましたが、正龍寺に伝わる「鉢形城の由来」には、本多忠勝が車山から「道中廿八人持と聞こえし大筒にて石火矢を打たせける」ことから諏訪曲輪、西の丸（三の曲輪か？）が焼け、開城することになったと記されています。

鉢形城歴史館で行われる平成20年春季企画展は、千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館所蔵資料を中心に、火縄銃など20点を展示します。主な展示資料は、「復元した南蛮筒」や大筒、フランキと呼ばれる石火矢、鉄砲玉の鋳型などです。合戦の撃ち合いを思い浮かべつつ、ご覧ください。

問い合わせ／鉢形城歴史館（☎586・0315）へ。

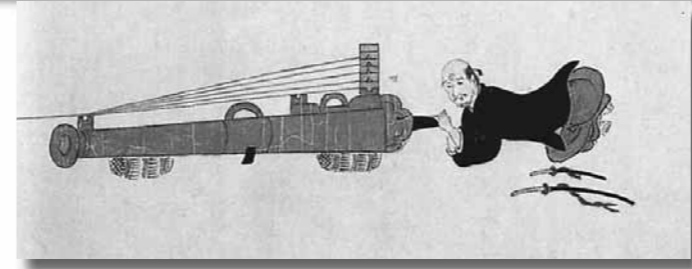
**ご参加ください！
「竹鉄砲作り」教室**

鉢形城歴史館企画展「武器から見る戦国時代」の関連事業として、竹で鉄砲作りを行います。皆さんぜひご参加ください。

日時／3月29日(土)午後1時30分～3時30分
製作時間30分程度
場所／鉢形城歴史館中庭
費用／無料
その他／事前申し込み不要・当日受付午後3時まで。
問い合わせ／鉢形城歴史館（☎586・0315）へ。



東南アジアの小型フランキ砲(上)と道元流秘伝書に見える石火矢(右) 国立歴史民俗博物館所蔵
石火矢は、入り(チャンパー)に火薬と玉を入れ、砲身後方に装着して発射するもので、青銅製です。道元流は、永祿年間には成立していたと思われる、九州地方の流派で、石火矢を得意としていました。



平成20年春季企画展

会期／3月15日(土)～5月6日(火)
※休館日は3月17日(月)、24日(月)、31日(月)、4月7日(月)、14日(月)、21日(月)
開館時間／午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)
入館料／一般200円、高校生・大学生100円
70歳以上・中学生以下・障害者手帳をお持ちの方は無料
会場／鉢形城歴史館企画展示室